

《担当者名》明野 伸次 [akeno@hoku-iryu-u.ac.jp]

【概要】

看護は健康の保持増進、病気の予防、健康の回復、苦痛の緩和を目的に、生命力の消耗を最小にするように対象者の生活過程に働きかけることである。この考えを根底に、基礎看護学の主要概念は人間・健康・生活・援助と考える。

本講では、看護学の原典ともいえるF.ナイチンゲール『看護覚え書』を講読し、“対象者の生命力の消耗を最小にする”ための働きかけ（援助）の本質を論じあい、人間理解の枠組み、看護実践の構造を探究する。

【学修目標】

1. F.ナイチンゲールが示す人間存在の固有性を説明できる。
2. F.ナイチンゲールが示す人間の生命力が最も機能する条件を説明できる。
3. 『看護覚え書』に記述された看護実践における観察の技術、看護師の役割・機能を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1～2	授業のすすめ方 1. ナイチンゲール看護論の歴史的背景	ゼミナール形式で文献講読とディスカッションで進める。 『看護覚え書』序章「看護とは何をなすべきか」「病気とは回復過程である」を読み解く。	明野
3～4	2. ナイチンゲール看護論（1）	『看護覚え書』1章「換気と保温」、2章「住居の健康」を読み解く。	明野
5～6	2. ナイチンゲール看護論（2）	『看護覚え書』8章「ベッドと寝具類」、9章「陽光」、10章「部屋と壁の清潔」、11章「からだの清潔」を読み解く。	明野
7～8	2. ナイチンゲール看護論（3）	『看護覚え書』13章「病人の観察」、3章「小管理」を読み解く。	明野
9～10	2. ナイチンゲール看護論（4）	『看護覚え書』6章「食事」、7章「食物の選択」を読み解く。	明野
11～12	2. ナイチンゲール看護論（5）	『看護覚え書』4章「物音」、5章「変化」、12章「おせっかいな励ましと忠告」を読み解く。	明野
13～14	2. ナイチンゲール看護論（6）	『看護覚え書』14章「おわりに」、補章「看護師とは何か」を読み解く。	明野
15	まとめ	F.ナイチンゲールが示す「看護の概念」「人間と健康」「看護実践のとらえ方」を確認する。	明野

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

プレゼンテーション（50%）、討議への参加（50%）を総合評価する。

【教科書】

- 1) F.ナイチンゲール、湯槇ます他訳『看護覚え書』（改訂第7版）現代社、2011。（1700円）
- 2) F.ナイチンゲール、薄井坦子他訳『看護小論集』現代社、2004。（1700円）

【参考書】

- 1) Florence Nightingale: NOTES ON NURSING (原文)、現代社、1974.
- 2) ナイチンゲール著作集（第1巻）、現代社、1977.
- 2) ナイチンゲール著作集（第2巻）、現代社、1977.
- 2) ナイチンゲール著作集（第3巻）、現代社、1977.

【学修の準備】

関連する参考文献を熟読し、授業に臨む。